

## 第8章 進捗管理

### 1 目標値の設定と期待される波及効果

まちづくりの方針（ターゲット）である「都市のリノベーションによる子育て世代の移住・定住の促進」の実現に向けて、各種施策の進捗度を表す指標と定量的な目標値を設定します。また、目標値の達成により期待される波及効果を定量化します。

ターゲットの達成状況を明確化するため、目標値及び波及効果は課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）の3つの軸に基づき整理します。

#### 【都市機能誘導区域内への誘導施設の集積】

##### 目標1 都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の充実

誘導施設の7割以上が都市機能誘導区域内に立地することを目標とします。

指標	現況値 (R3)	目標値 (R27)
都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の数	8/15 施設 (53.3%)	11/15 施設 (73.3%)

#### 波及効果 水原地区において徒歩で通院や日常の買い物ができている人の割合の上昇

都市機能誘導区域内へ誘導施設が集積することにより、徒歩で通院や買い物ができる人の割合が上昇することが期待されます。

波及効果	現況値 (R2)	期待される効果 (R27)
徒歩で通院や日常の買い物ができている人の割合（水原地区） （阿賀野市まちづくりアンケート）	4.1%	上昇する

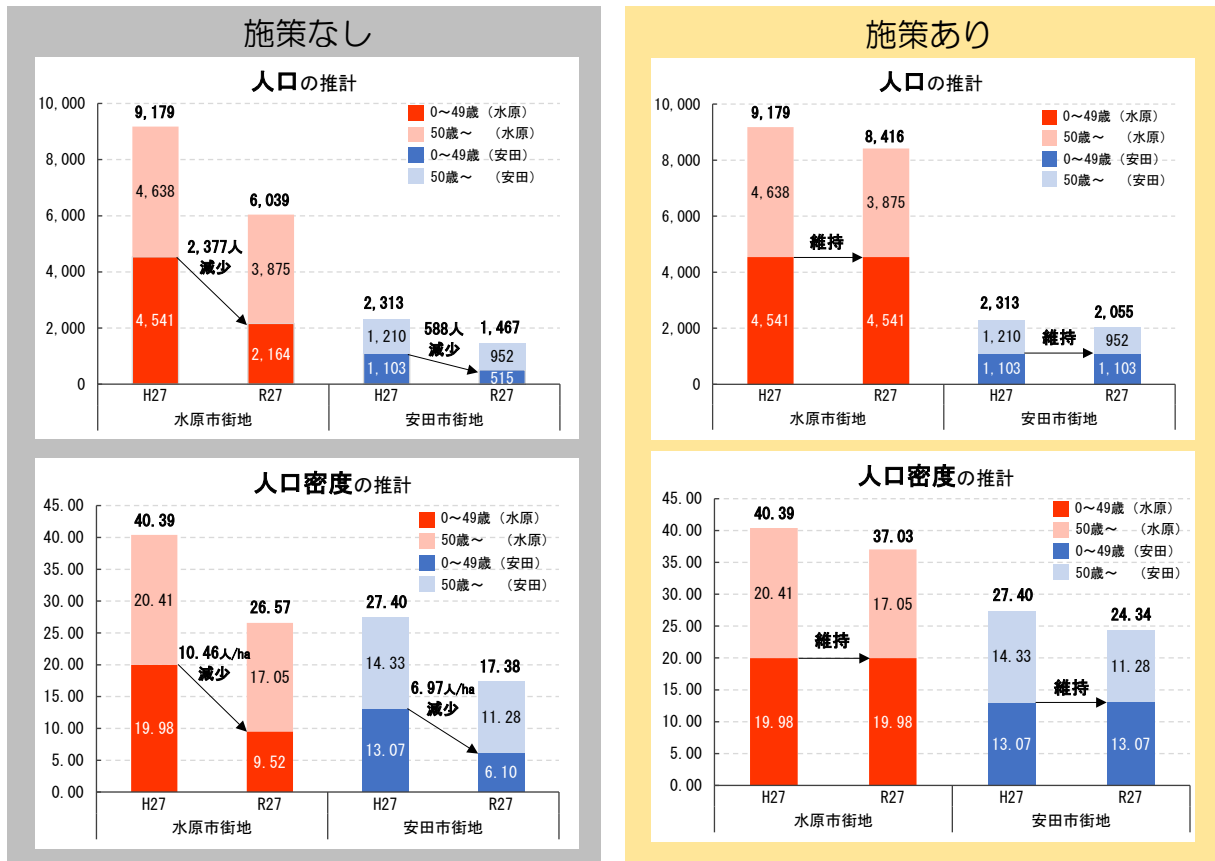
## 【居住誘導区域内への居住の誘導】

### 目標 2 居住誘導区域内における若者・子育て世代の人口減少抑制・人口密度の維持

居住誘導区域内への居住誘導施策により、若者・子育て世代（0～49歳）の人口減少抑制及び人口密度を維持することを目標とします。

目標達成のためには、平成27年から令和27年までの30年間に、都市拠点（水原市街地）では2,377人の人口減少、10.46人/haの低密度化、地域拠点（安田市街地）では588人の人口減少、6.97人/haの低密度化を抑制する必要があります。

指標		現状値	現状趨勢値 (施策なし)	目標値 (施策あり)
若者・子育て世代の人口 (H27→R27)	都市拠点	9,179人	2,164人 (2,377人減)	約4,500人
	地域拠点	2,313人	1,103人 (588人減)	約1,100人
居住誘導区域内の人口密度	都市拠点	40.39人/ha	26.57人/ha	37.03人/ha
	地域拠点	27.40人/ha	17.38人/ha	24.34人/ha



### 波及効果 生活サービス施設の維持による快適な居住環境の形成

居住誘導区域における若者・子育て世代の人口減少の抑制及び人口密度の維持によって、周辺地域の人口密度に依存する生活サービス施設が維持され、居住誘導区域内における生活サービス施設の利便性が高いエリア（医療・商業・福祉サービスが徒歩圏で利用可能な範囲）が維持あるいは拡大することが期待されます。

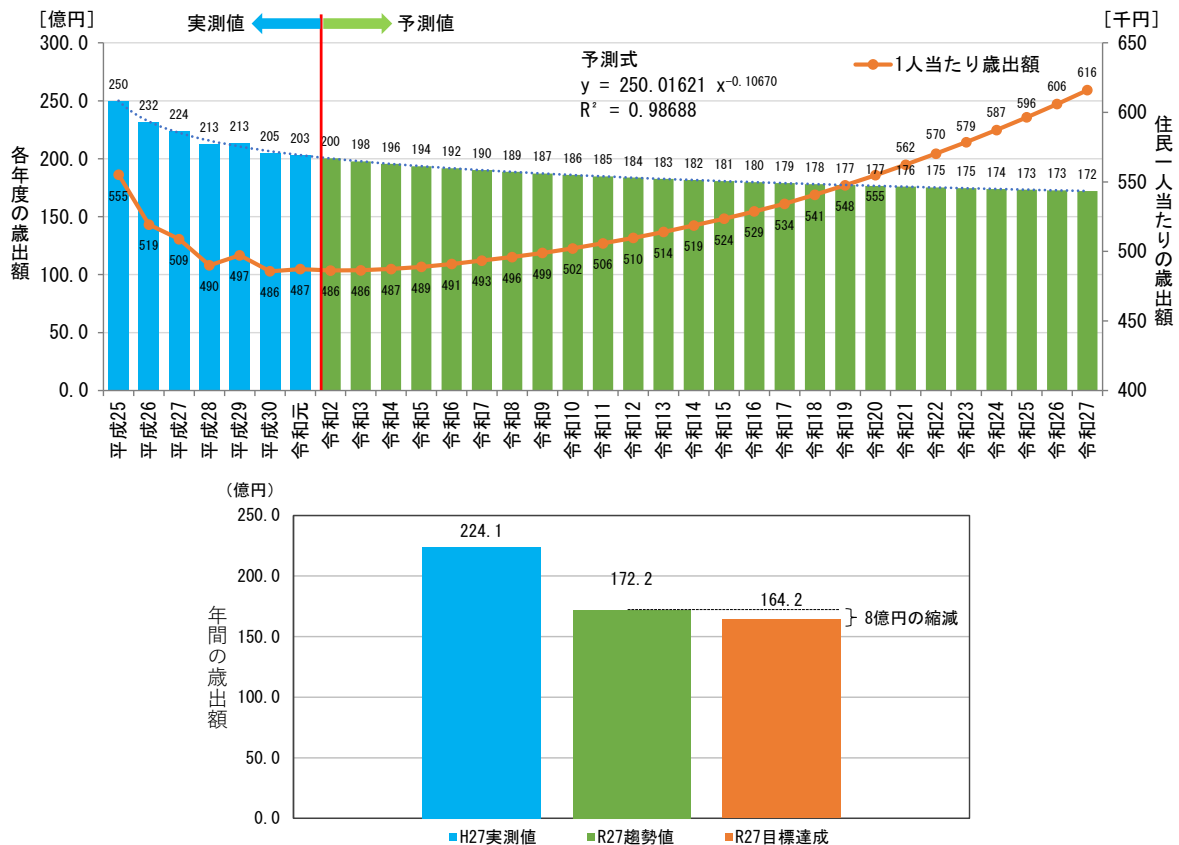
波及効果	現況値 (R3)	期待される効果 (R27)
居住誘導区域内の生活サービス施設の施設数	都市拠点：26施設 地域拠点：7施設	維持・増加する
生活サービス施設の徒歩圏の居住誘導区域内カバー率	都市拠点：99.8% 地域拠点：98.7%	都市拠点：100.0% 地域拠点：100.0%

## 波及効果 財政支出の縮減

第2章2節 人口密度と歳出の関係性（40 ページ）に示した通り、全国市部の人口密度と一人あたりへの歳出額との間には相関関係があります。

居住誘導区域内で誘導施策を講じない場合、本市の人口密度の減少に伴い住民一人当たりの歳出額が増加し、令和27年時点で年間約61万6千円、市全体の年間歳出額に換算すると172億2千万円になる見込みです。しかし、誘導施策により人口密度の低下が抑制されることで、市全体の年間歳出額は年間164億2千万円に抑えられ、年間約8億円の縮減が期待されます。

波及効果	趨勢値 (R27)	目標達成 (R27)	期待される効果 (R27)
市の年間歳出額	約172億2千万円	約164億2千万円	約8億円の縮減



資料：阿賀野市の年間歳出額と人口密度（住民基本台帳）を基に作図  
**図 8-1 阿賀野市における歳出額の推移と将来予測（上図）**  
**目標達成により期待される年間歳出額の削減効果（下図）**

## 波及効果 地価の下落抑制

居住誘導区域における居住の誘導により、地価の下落の原因の一つとされる人口減少及び少子高齢化の傾向が緩和され、居住誘導区域内の地価の下落が抑制されることが期待されます。

波及効果	過去5年の低下量	期待される効果 (R27)
地価の下落傾向	公示地価：250円程度 県標準地価：350円程度	公示地価：250円未満 県標準地価：350円未満

## 【空き家を活用した誘導施設や居住の誘導】

### 目標3 居住誘導区域内における空き家の発生件数の減少

空き家バンクや阿賀野市空き家リフォーム支援事業補助金の活用によって、居住誘導区域内における空き家の発生件数を半減させることを目標とします。

指標	現況値 (R2)	目標値 (R27)
居住誘導区域内における空き家の発生件数	168 件	半減させる

## 【拠点におけるネットワークの充足】

### 目標4 居住誘導区域内におけるバスの乗降場 (10 本以上/日) の徒歩圏カバー率の維持

居住誘導区域内の人口密度が維持されつつ、阿賀野市地域公共交通網形成計画に基づき拠点におけるアクセス性向上が図られることにより、居住誘導区域内における、1日に10本以上のバスが停留する乗降場からの徒歩圏（乗降場から半径300m）のカバー率を維持させることを目標とします。

指標	現況値 (R1)	目標値 (R27)
居住誘導区域内におけるバスの乗降場 (10 本以上/日) の徒歩圏カバー率	都市拠点：92.9% 地域拠点：95.1%	維持する

### 波及効果 市民の公共交通機関の満足度が向上する

バスの乗降場の徒歩圏カバー率を維持する目標の達成及び拠点におけるアクセス性の向上が図られることにより、市民の公共交通機関への満足度の向上に表れることが期待されます。

波及効果	現況値 (R1)	期待される効果 (R27)
公共交通機関の満足度 (阿賀野市まちづくりアンケート)	8.5%	向上する

## 【子育てのしやすいまちの構築】

### 目標5 居住誘導区域内における子育て支援施設の充足率の向上

居住誘導区域への認定こども園等の子育て支援施設の誘導により、居住誘導区域内における子育て支援施設の充足率（徒歩圏のカバー率）を向上することを目標とします。

指標	現況値 (R3)	目標値 (R27)
居住誘導区域内における子育て支援施設の徒歩圏のカバー率	都市拠点：93.7% 地域拠点：13.5%	都市拠点：100.0% 地域拠点：70.0%

### 波及効果 子育てしやすい施設や制度が整っていると思う市民の割合が上昇

子育て支援施設の徒歩圏カバー率が向上することにより、水原・安田地区において子育てしやすい施設や制度が整っていると感じる市民の割合が上昇することが期待されます。

波及効果	現況値 (R3)	期待される効果 (R27)
子育てしやすい施設や制度が整っていると思う市民の割合 (阿賀野市まちづくりアンケート)	都市拠点：79.3% 地域拠点：73.7%	都市拠点：上昇する 地域拠点：上昇する

## 2 進行管理

阿賀野市立地適正化計画は、概ね 20 年後を見据えた長期計画ですが、その間に社会経済状況等の大きな変化が生じることで、施策・事業の進捗に影響することも予想されます。

そのため、都市計画運用指針では、概ね 5 年毎に計画に記載された施策・事業の実施状況について、調査・分析及び評価を行い、計画の進捗状況や妥当性等を精査・検討し、必要に応じて計画の見直し等を行うべきであるとしています。(図 8-2)

そこで本計画では、設定した「目標値」及び「波及効果」について、継続的なモニタリングを行い、5 年毎の評価等を実施します。また、設定した誘導施策について、毎年事業の進捗状況等を把握します。これらにより、必要に応じて計画の見直し等を図ります。(表 8-1)

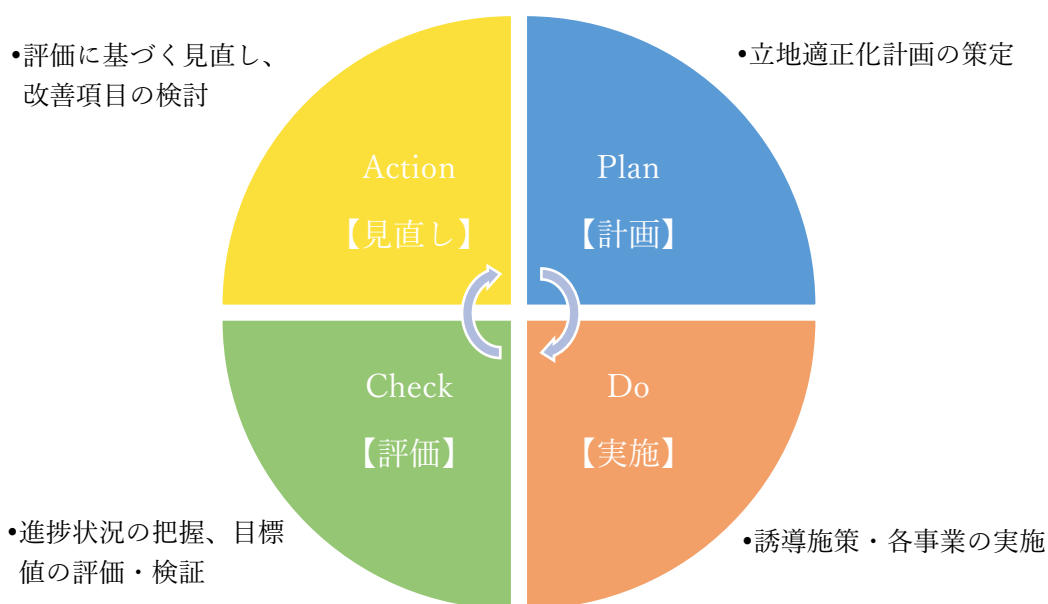


図 8-2 PDCA サイクルによる計画の評価と見直し

表 8-1 計画の進行管理のイメージ

年度	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9	令和 10	令和 11	令和 12	令和 13	令和 14	令和 15	令和 16	令和 17	令和 18	令和 19	令和 20	令和 21	令和 22	令和 23	令和 24	令和 25	令和 26	令和 27	
計画策定				都市計画基礎調査 国勢調査					都市計画基礎調査 国勢調査					都市計画基礎調査 国勢調査					都市計画基礎調査 国勢調査						改定
モニタリング				毎年度の進捗状況を把握																					
効果検証				●					●						●					●					
見直し				必要に応じて見直し																					